

INNOLAND(インノランド):スタートアップ企業支援機関

アゼルバイジャンの大統領府傘下のスタートアップ企業支援機関である、INNOLAND(インノランド)のカリモフ所長、アガキシエフ・スタートアップ部長から同機関が提供しているサービス等についてお話を伺いましたので、以下にご紹介します。

1. インノランド(IL)概略

IL は、3 年前に設立された、スタートアップ企業を支援する大統領府直轄の政府機関です。我々が提供するサービスは無償で、営利団体ではないため毎年政府予算が割り当てられていて、4 名の有給職員で運営しています。

IL は、一定の条件を満たしたスタートアップ企業に対して、「インキュベーション」及び「アクセラレーション」プログラムを提供しています。IL のプログラムに参加するスタートアップ企業(少人数のチーム)は、基本的にソフトウェア開発を行う企業で、同企業のメンバーの平均年齢は 30 代です。

2. インキュベーションプログラム

IL のプログラムに参加したいスタートアップ企業は、IL に対して開発を目指す商品のアイデアをプレゼンし、同アイデアが有望と認められる場合はインキュベーションプログラムに参加できます。同プログラムは 3 ヶ月のプログラムで、IL は参加企業に(共同)ワークスペースとメンターシップ(アドバイス)を提供しています。参加企業は、同プログラム中に MVP(Minimum Viable Product: 顧客に価値を提供できる最小限のプロダクト)を考案することが期待されています。

3. アクセラレーションプログラム

本プログラムは 20 週間のプログラムです。参加スタートアップ企業は、週 2 回の国内外の関連企業・起業家等によるメンターシップを通じて、商品開発を進め、最後に卒業式に値する「デモ(インストレーション)・デー」において国内外の企業に対して商品のプレゼンテーションを行い、企業とのネットワーキングを図りつつ、投資を募ります。IL は、カリモフ所長の国外の幅広いネットワークにより全世界で約 200 人のメンターを持っているため、参加スタートアップ企業に対して様々な分野からの助言を与えることができます。IL のプログラムに参加したスタートアップ企業への投資の最高額は百万ドルで、トルコの投資家によるものでした。アゼルバイジャンの投資家からは、シード投資としておおよそ 3 万から 7 万ドルが IL のプログラム参加企業に投資されています。

IL のプログラム参加企業は、「デモ・デー」を経て卒業することになっていて、これまで卒

業した 70 のスタートアップ企業の内、20 数社が投資を勝ち取っています。その投資の合計額は約 200 万ドルに上ります。投資額の内訳は、35%が国内、65%が国外からで、国外投資家には、トルコ、ドイツ、米国、中東諸国等、様々な国の投資家が含まれています。スタートアップ企業の定義付けは容易ではありませんが、IL がスタートアップ企業の体を成していると認められるアゼルバイジャンの企業は、IL のプログラムに参加した 70 の企業のみです。

4. 海外市場重視の傾向

IL は、IL プログラム参加企業をトルコ、ドイツ、米国等に一部経費を IL が負担する等して派遣し、海外企業との連携を促しています。また、コロナ以前は国外で海外の企業・機関との共同ワークショップを開催していましたし、コロナ後はオンラインで同様の取組を行っています。当地のスタートアップ企業が韓国を訪問して、オンラインセールス向けソフトウェア開発を行ったこともあります。IL プログラム参加企業は、経済規模が小さいアゼルバイジャン市場よりも海外市場に目を向けており、ベルリンやシンガポール等で登記することを望む企業が多いです。

アゼルバイジャン人の頭の中には、国民が受ける多くのサービスは当然無料であるべきであるといったソ連時代の名残がまだ残っていて、例えばネット経由で提供されるサービスも無料であるべきであるとの考えがあります。つまり、支払いをしてまでオンラインサービスを利用する気はないという風潮が強いのです。具体例を挙げれば、多くのアゼルバイジャン人はオンラインゲームに対して支払いをする気がありません。しかし、例えば米国に目を移すと、米国人は当然の如く、面白いゲームであればオンラインゲームであっても支払って遊びます。そのため、当地のスタートアップ企業は必ずしも国内市場ばかりに目を向けておらず、米国のような確実に儲かる市場向けへの商品開発を行っています。

スタートアップ企業が置かれている状況を 30 カ国以上で視察し、韓国は訪問したことがあるのですが、日本はまだ訪問できていません。日本は相対的にみて大企業のプレゼンスが大きく、米国のようにスタートアップ企業が多く資金を集められるような環境ではないと理解しています。その点で、日本はアゼルバイジャン経済と似ていると考えています。今後、訪日を実現させ、日本の状況についてもさらに学びたいと思います。

(INNOLAND ホームページ)

[Innoland | Incubation & Acceleration Center](#)

(以上)